

第1回 仙台医療介護連携の会

ご報告

開催日時:平成25年11月21日(木)19:00~21:00

会場:仙台サンプラザホテル

仙台医療介護連携の会とは

<経緯>

宮城県第三期地域医療再生計画に基づき、25年度より3年間「介護との連携による在宅医療の推進と普及啓発事業」を実施することとなりました。当クリニックはこの事業について事業提案し、採択するに至りました。本事業を実施し、在宅医療を推進していくためには、市内の医療・介護の団体と協力して事業を推進し、終了後も引き続き継続できるものを作り上げていく必要があると考え、各団体に呼びかけて集まっていただきました。

<本会議の目標>

昨年度明らかになった課題を含めて、解決策を改めて提案させていただきます。各団体等で取り組まれている内容を共有し、協力体制を作って真に医療、介護が包括的に提供できる体制を作ることを目的としています。2年間の取り組みを通して、行政へ政策提言を行うことができるようまとめ合わせて宮城県地域医療計画に掲げられている「在宅看取り率30%」を目指します。

構成委員 20名

仙台市医師会3、仙台歯科医師会1、仙台市薬剤師会2、宮城県看護協会1、宮城県訪問看護ステーション連絡協議会1、宮城県ケアマネジャー協会1、仙台市地域包括支援センター連絡協議会1、仙台市老人福祉施設協議会1、宮城県老人保健施設連絡協議会1、宮城県認知症グループホーム協議会1、仙台介護サービスネットワーク1、宮城県病院協会3、学識経験者2

オブザーバー6名

行政(宮城県(医療・介護)4、仙台市(介護・障害)2)

内容

【情報提供1】

「地域包括ケアにかかる統計」の説明(事務局)

【情報提供2】

「平成25年度薬物療法提供体制強化事業について」

宮城県薬剤師会 副会長 森川昭正氏

【グループ討議】

テーマ「実現可能な、今後2年間で取り組む課題をしぼる」



討議の中で出てきた「課題」と「解決の手がかり」 抜粋

「課題」

地域ケア会議のようところで、医療の情報を得たいと思うが、医療職の出席がない。

医療処置などの看護の部分が多いときなどは、訪問看護と一緒に病院に来てほしい。

客観的に在宅可能な方も、病院→老健→特養となっている。

ケアマネからドクターにケアプランを送ってほしい。

ケアマネが適切にアドバイスできるような啓発が必要ではないか。

特別養護老人ホームでの看取り体制が充実していない。

訪問をする医師、認知症対応してくれる医師が少ない。どこにいるのか、情報が得られない。

医師が会議に出席できない、仕方がないとしてしまっているケースがある。

ケア会議に薬局は呼ばれない。ケアマネの意識が低い。

多かった意見

地域資源が見えるようになる

スムーズな本人情報の共有ができるシステム

中学校区よりも大きい単位での会議の開催(地域のこと、ケースのこと検討)

互いの仕事が見える関係が作れる交流会や研修会の開催

「解決の手がかり」

互いの職種が何をしているのかが見える形になり、研修等を実施して幅を広げていくのはどうか。

どこに、どんな資源(人、場、取り組み等)があるのかがもっと見えるようになるのか。

実践を伴って今がある。結果的に実践を深めていくことがなければ机上の空論になると思う。

中学校区単位だと会議の乱立につながるので、既存の会議をどう整理整頓しながら意義のある目的がある程度提示された会議だったり、場をどう整理整頓しながら意義のある目的のある程度示された場が作れるのかが鍵。「自分の地域を考える会」みたいなのが作れない

診断書や指示書のよな紙一枚なんかの情報じゃなくて、医療も福祉も共有することができる形がないか。宮城県内でも取り組んでいるところはあるようだ。

元気なうちからかかりつけ歯科医を持ち、介護予防に取り組み、通院困難になっても継続管理ができるとうい。

刻々と変化する本人の医療情報を共有する機会がない。理解されていない。